

“Heart to Heart”

心から心へ わかちあう あたたかさ

第12巻 第2号 (No.36)

発行日 2017年12月1日

園や学校とのコミュニケーション

武蔵野東教育センター所長 計野浩一郎

目次:

園や学校との コミュニケーション	1
療育プログラムのようす	2・3
コラム：言葉の意味と 話し手の意味（2）	4
ホームカミングデー	4
教育センターからのご案内	4

日々の指導の報告や10月に実施しました保護者の方との懇談の報告で特に気になったことは、幼児の保護者の方はこれから学校に入ることへの不安が強いこと。小学生以上の方は、現在通っている学校における教師や同級生との関係づくりや活動の在り方に対する不安を抱いている方が多いことでした。

教育センターでは、これまでもこれからも子どもたちへの支援に関して私たちの支援の在り方への理解と連携を推進するために教員見学説明会を定期的に行うとともに支援会議への参加を少しずつ進めているところです。

さて、それでは園や学校とのコミュニケーションはどのように築いていったらよいのでしょうか。以下にヒントになることを紙面の許す限りで書いてみたいと思います。

まず大切なことは、先生との信頼関係を構築することです。そのためには相手を知り受け入れることから始めましょう。どれだけわが子を知っているのかがわからないと、どこまでの情報を伝えてよいかわかりません。そして情報の共有を図るとともに情報の引き継ぎができる準備しておくことが重要です。そのために子どもの現状について、何は得意で何が不得意なのか、困った行動に対する予防策やその際はこのような言葉がけをしているなどを書面（A4で1枚程度）にして渡せる関係になれるとよいと思います。学年や学校が変わるときに毎回渡せるように内容を吟味しておくとういでしょう。学校には、保護者の方の意向を含めた「個別の教育計画」「個別の指導計画」がありますので、情報の共有や引き継ぎは基本的になされていますが、子ども

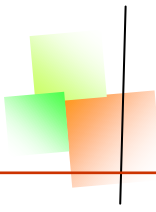
のことを一番知っている保護者からの家庭等での接し方などの情報は担当者にとってもありがたいものです。

次に周囲の保護者との関係を築いていくことです。周囲の保護者をご自分の子どもを通して、学校での様子を先生方とは違った視点で把握していることが多くあります。無理のない程度に情報交換や協力ができる周囲の保護者と知り合えるようにしていきましょう。周囲の方々に障害について話すかどうかについては難しい問題ですが、うまく伝えることで周囲の誤解を解き、状況を好転させるきっかけとなる場合もあります。信頼している方に相談しつつ慎重に検討したいことだと思います。

最後に子どもの状態を常に把握しておくことが最も重要なこととなります。子どもが示す言動がどのような状態になったら方向転換を視野に入れるべきか大人は常に目安を持って日々を過ごす必要があります。無理は二次的な障害を引き起こす危険性をはらんでいますので禁物です。子どもは日々変化し成長していく存在です。その時々の変化を把握し、大人の思いで判断を先延ばしにしないようにしていきましょう。

私たちは、子どもたちや保護者の方々にあってプラスになることには快く対応していきたいと思っています。保護者の皆様におかれましては、園や学校の先生方と積極的にそして地道にコミュニケーションをとり、その関係の中に当教育センターも含めていただき、地域の園や学校への橋渡しのご協力をお願いします。





療育プログラムのようす 【各教室・言語プログラムの様子】

リトムーブ教室 音楽やリズムに合わせて運動をすることで、体の使い方や体幹の強化、テンポに合わせて体をコントロールできるようになることなどを目的に活動しています。ステップの活動では、4分音符や2分音符に合わせて歩く練習をしています。少しずつですが、太鼓の音に耳を傾け、テンポやバランスをコントロールする力が身につけていきます。(高橋)



ステップ練習

SST教室 1・2年生は、「ピンポンかご入れ」の活動をしています。この活動では、かごに入れるためにピンポン玉を眼で追う追従性眼球運動や、勝敗のあるゲームを楽しむ経験、友だちへの声掛けや応援の仕方を覚えて使うことを目的としています。子どもたち同士で工夫や意見の交換をする姿も見られ、良い学びの場となっています。(猪野)



よく見てかごに入れられるかな

体育教室 中・高校生のボルダリング活動では、よじ登る課題の他にぶら下がる課題を取り入れています。日常において、腕や手に全力で力を込める機会があまり得られないためか、五指をしっかりと広げることや、力いっぱい拳を握ることができない生徒が多いように感じています。自分の体重を2本の腕で支えるという単純な活動ですが、互いに友だちの頑張る姿を意識しながら真剣な表情で取り組んでいます。(鈴木)



ぶら下がりがり10秒間

幼児体育教室 11月から前転が始まりました。背中を丸め、くまさん歩きの姿勢から「いちにのごろん！」の号令で回転します。回ったあとに腹筋を使って起き上ることも上手になってきました。前かがみの感覚、回る感覚にも慣れて楽しかったようで、家庭でも布団の上で練習しているという声をよく聞きます。この時期は厚めの布団が出ていると思いますので、ぜひ練習してみてください。(久留)



いちにのごろん！

ダンス教室 2月に行う発表会に向けての練習に入りました。「音楽をよく聞くこと」や「友だちと合わせて動くこと」をめあてに頑張っています。今回はさわやかなパステルカラーのセーラー服の衣装で「じゃんけんぽん」と言う曲にのせて元気よく踊ります。衣装を初めて着た時は皆がとてもわくわくしていて、練習中も自然と笑顔が増えました。発表会は2月3日(土)14:15からスカーホールで行います。応援よろしくお願ひいたします。(新堂)



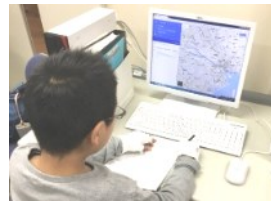
発表会練習の様子

幼児絵画造形教室 秋は「絵の具」に取り組みました。好きな色の絵の具を選び、水を入れてよくかき混ぜたら準備完了！思い思いに自分で描いた絵に塗っていきます。絵の具がクレヨンをはじくことに驚いたり、色を混ぜていくとマーブル模様から次々と色が変わっていくことに驚いたりと絵の具のマジックに全員がわくわくする楽しいひと時になりました。(本田)



絵具はたのしいね！

コンピュータ教室 インターネットの乗り換え案内サイトを使って目的地までの行き方や所要時間を調べる活動を行っています。また、それらのサイトを使って観光計画を立て、「最寄り駅から目的地までは何分かかかるのか」「旅費は何円かかるのか」「どんなお土産を買えるのか」などを調べる活動を楽しんでいます。(吉田)



地図を見ながら観光計画

言語プログラム はっきりとした音を作ることができるように子どもの課題に合わせていろいろな工夫を試みています。例えば、音を作る際に鼻から声が出ないようにする練習として、コップに水を入れてストローでブクブクと水を吹くことや、折り紙で作った紙筒をストローの先につけて吹き飛ばす活動をしました。また、大きな声が出せるようにするために、段ボール箱で作った空気砲を横から「バン！」と言いながら叩かせます。叩いた勢いで中から赤い千代紙が舞い上がるため、それが楽しくなってだんだんと大きな声を出すようになることが期待できます。(計野ち)



大きな声で「バン！」



【スクールプログラム・ラーニングプログラムの様子】

幼児 年中スクールでは4月から行ってきた塗り絵に加えて、手本と同じように動物の顔などを描くことに取り組み始めています。慎重になるあまり、画用紙に比べて小さいサイズで描いてしまう子どもたちが多いので、「大きく、大きく！」と声をかけながら行っています。作品ができあがった後は、みんなの前で作品紹介。どの子どもも誇らしげな笑顔を見せていました。(臼井)



うさぎさん、できてきたよ！

1年生 音楽の授業では、歌唱・鍵盤・ハーモニカ・リズムを年間を通して行っています。前回リズムの練習をしました。4分音符、2分音符、4分休符を組み合わせたものを黒板に提示し、曲に合わせて手拍子をします。「タンタンタンタン タウンタンウン」と元気よく言いながらリズムに合わせて打つことができました。(宮下)



さあ、リズムに合わせてたこう！

2年生 国語で「しかけカードの作り方」という説明文の学習をしています。しかけカードを作る手順や絵の描き方などを、「まず」「つぎに」「そのつぎに」「さいごは」といった言葉を使って説明できるように練習を繰り返し行っています。今後は、話の中に出てくるしかけカードを参考にしながら、図工の時間にもみの木が飛び出すしかけのクリスマスカードを作る予定です。(宮川)



しかけカード



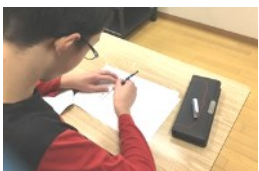
もうすぐクリスマス

3年生 もうすぐクリスマス。図工で折り紙・はさみ・のり・シールなどを使い雪だるまやツリー、ステッキなどを入れた作品を作りました。色や形、レイアウトを考えて子どもたちそれぞれの素敵な作品が出来上がりました。12月は、4年生といっしょに作品を廊下に展示します。子どもたちは自分の作品が飾られるのを楽しみにしていました。ぜひご覧ください。(久留)



絵を見て文章を完成

4年生 国語の学習で「文づくり」の学習を行っています。いきなり文章をイメージするのは難しいものです。そこで、イメージの想起を助ける連続した絵を参照しながら「日付」「行っていること」「様子」「感情」などを空欄の中に入れて、長い文章を作成する学習を行いました。「」内の台詞を子どもたちに考えさせることでユーモアに富んだ文章が多数でき上がりました。(藤本)



定規をしっかりとおさえて丁寧に

5年生 算数では「正多角形と円」の単元に取り組んでいます。辺や角の数を数えて、「正何角形か」を答える学習では、数え方がわかってくると、みんな積極的に挙手をして、発言することができました。また、定規を用いて正多角形を作図する練習も行いました。定規をしっかりとおさえて、ゆっくりと丁寧に線を引くことを意識して集中して取り組むことができました。(大澤)



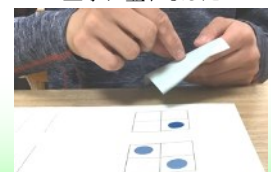
皆で楽しくインタビュー

6年生 発表の時間にインタビューの活動を行っています。①友だちに声をかける、②指定された質問をする、③友だちからの質問に答える、という手順にそってインタビューできることをめあてとして活動をしています。各々が自由に動いてまだ質問をしていない友だちを探し、その友だちがインタビュー中であれば他の友だちを探すとといった様子が見られ、楽しみながら活動できていました。(吉田)



上手に登れました

中学生 体育の時間にボルダリングをしました。新設された緑色の壁は少しだけ前傾しており、登るのが難しくなっています。その壁から体を離して天井から吊り下がっているベルを鳴らす課題に挑戦しました。ベルを鳴らすには片手でホールドを握り体重を支えることと壁から離れることを恐らない勇気が必要です。どの生徒も勇気を振り絞って腕を伸ばしていました。(吉田)



シールを同じ場所に貼ろう

ラーニングプログラム プリント学習だけではなく、目と手の協応や指先のトレーニングを目的に様々な課題に取り組んでいます。シールを同じ色の枠に貼ったり、ピンポン玉をバウンドさせてキャッチしたり、おたまですくって容器に移したり、個々に応じて楽しくスキルアップしています。(高橋)



コラム 自閉症の研究から (3)

言葉の意味と話し手の意味 その2

松井 智子 (東京学芸大学教授)

小学生の息子とデパートに買い物に行き、これから食事をしようというとき、「ほら、レストランは上の階だから、そのエレベーターに乗って、上に上がって！」と指差しをしながら私は言いました。息子はニヤニヤしていましたが、私の言ったとおりに行動しました。そして上の階に着いたとき、大人びた声で言いました。「ママ、エレベーターじゃないよ、これ、エスカレーターだよ。」

そうです、息子の言うとおりに、私は「エスカレーターに乗って」と言うつもりだったのに、「エレベーターに乗って」と言ってしまったのです。でも息子は私の「言ったとおりに」、エスカレーターに乗りました。私がエスカレーターを指差しながら話をしていたことや、すぐ前にエスカレーターがあったことなども手がかりになって、私が言い間違いをしていることにすぐ気がついたのだと思います。

さて、相手が言い間違いをしたな、と気づくには、言葉の意味を理解することに加えて、相手が何を言いたかったのかを推測することが必要です。でもそれだけでは足りません。言い間違いに気づくには、相手が言いたかったことは、言葉の意味が伝えることとは違うかもしれない、という認識が不可欠なのです。

大人であれば、それは当然のことと思われるかもしれませんが、幼児期の子どもは、まだ相手の言い間違いに気づくことができません。そして自閉スペクトラム症の場合は、年齢にかかわらず、言葉の意味が伝えることと相手が伝えたかったことは違うかもしれない、という認識を持つことが難しいようです。

この難しさを説明するのには、いくつかの可能性があります。ひとつは、その場の状況から相手が伝えようとしていることを推測することができないために、言葉の意味が相

手の言いたいことだと、思ってしまうということですね。文脈がわからない、とか、行間が読めない、という言い方もできます。



もうひとつの可能性は、自閉スペクトラム症の人たちにとって、言葉の意味は最も信頼できる情報であるために、言葉の意味と相手の言いたいことがずれていると、言葉の意味を優先するということです。これは、自閉スペクトラム症の人は文脈がわからない、と言うのは少し違います。言葉の意味を絶対的なものととらえる傾向があるために、言葉の意味とは別に、話し手の意味があるとは思えないのではないかと、考えるのです。私自身はこちらの可能性が高いのではないかと推測して、調査をしています。じつはこの傾向は、定型発達の子どもにも少なからず見られます。

今回はその調査からわかったことをお話したいと思います。

このコラムは4回シリーズでお届けします

ホームカミングデー

11月23日に、以前受講していたOBと保護者を迎えてホームカミングデーを開催しました。近況を報告してから、OBはボルダリングやトランポリン、写真加工などのレクリエーション、保護者は情報交換や歓談を楽しみました。久しぶりに再会した友だちやスタッフとなつかしい時間を過ごしました。毎年11月23日(勤労感謝の日)に開催しておりますので、OB・OGの方は是非ご参加ください。



武蔵野東教育センター

〒180-0012

武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

URL: http://www.musashino-higashi.org

2018年度療育プログラム一次募集開始

2018年度療育プログラムの一次募集を行っています。受講希望の方は、申込用紙またはウェブサイトのフォームにて2017年12月12日(火)までにお申し込みください。

詳しい資料を希望の方は、電話かホームページのフォームでご請求ください。ご相談や見学も承っております。